



パワーの源

年末年始、筆者の住む地域で“嵐”が吹き荒れ、まだ続く。ここもご多分に漏れず高齢化が進み、一人暮らしのお年寄りが多い。お年寄りにとって買い物は大仕事だが、この20年ほどの間に魚屋がなくなり、肉屋がなくなり、その前後に出店してきたコンビニも引き上げてしまった。唯一残っているのがT酒店で、お酒は勿論、日常に必要とされる雑貨、ちょっとした野菜・果物、魚、さらに自家製の総菜や弁当を販売しており、ライフラインの貴重な一翼を担ってきた▼T酒店は70代の姉妹二人で運営していたが、年末に妹が脳腫瘍で倒れ、年明けには姉が胃潰瘍で胃に穴があいて緊急手術。店は閉店を余儀なくされるどころであるが、T酒店を店仕舞させるわけにはいかないと有志が集まってボランティアで手分けし時間調整をして、可能な時に店を開けて、何とか営業をストップさせずにいる▼さつそくに対応を迫られたのが青色申告で、11月ごろから妹の体調が悪く、事務処理が滞っていたことが判明。妹に相談できない状況の中でどうして決算をするか、ボランティアの中でも中心となってくれている二人に筆者も同行して青色申告会に相談。青色申告会の協力を得て何とか申告を済ませることができた▼その青色申告会からの帰りの車中、ボランティアの一人Kさんに、どうしてここまで親身になってT酒店を応援してくれるのか聞いてみた。返ってきたのは「昔、占い師に診てもらい、あなたは死ぬときに『いい人生だった』と喜んで死んでいく」との見立てをもらったという話し。最終的に喜んで死んでいくことができるなら、怖いものなし。何でもやりたいこと、やるべきことはやるんだ、とのこと。とても感動！これは何か協同組合運動にも通じるようなところがあるようにも感じた。

(土着菌)